小松城（芦城, 小松の浮城）（市指定史跡）（石川県小松市丸の内町）

（小松高校, 芦城公園）

小松城（こまつじょう）は、石川県小松市丸の内町にあった日本の城

概要

天正 4 年（1576 年）に加賀一向一揆方の若林長門守によって築かれたといわれ、織田信長の武将柴田勝家により攻められ、村上氏、丹羽氏が城主となった。江戸時代になると加賀藩領となるが、元和元年（1615 年）に一国一城令で廃城となる。

寛永 16 年（1639 年）、2 代藩主前田利常の隠居城という名目で再築、しかし大規模な水堀を廻らし、築島を配するという新城建設に似た規模なものとなった。完成した城域は金沢城の約二倍の規模を誇る。利常の死後は加賀藩金沢城の支城となり、城番により統治され、明治維新を迎えた。

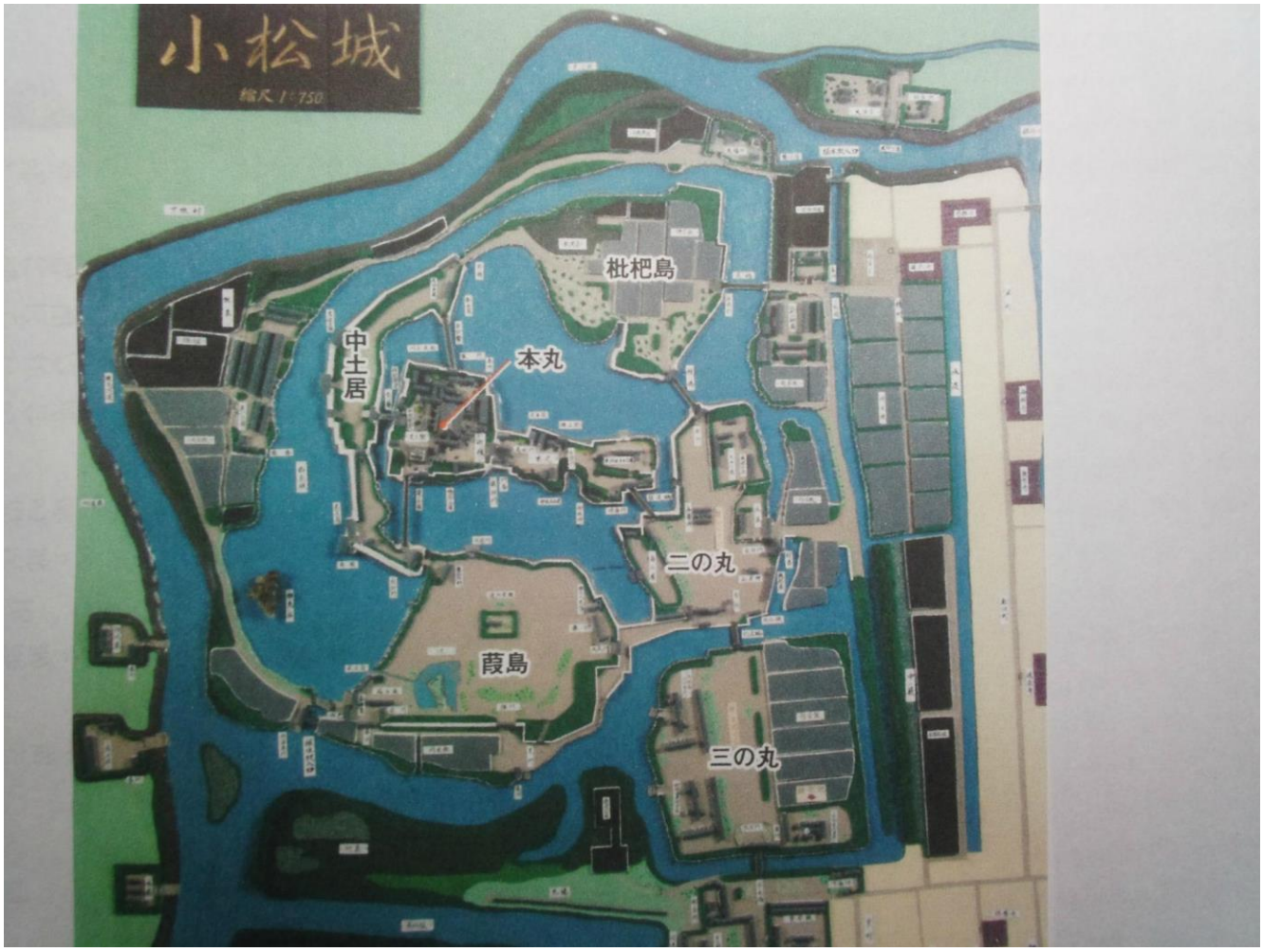
本丸には天守台が築かれ、天守の代用として御三階櫓が築かれた。広大な水堀に浮かぶ姿から浮き城の別名を持つ、難攻不落の実戦を想定した要塞であった。

遺構

現在、城域はそれぞれ隣接する小松市役所、芦城公園、石川県立小松高等学校として開発され、遺構の保存状態は良くないが、天守台及び内堀の石垣が残る。建造物としては、鰻橋御門が小松市園町来生寺寺門に移築され現存し、兎御門扉及び葭島御殿兎門扉が金沢市兼六成巽閣で、二階御亭入口扉が小松市丸の内公園町小松市立博物館で、それぞれ保管されている。

沿革

- 天正 4 年（1576 年） － 加賀一向一揆方の若林長門守によって築城された。
- 天正 7 年（1579 年） － 柴田勝家に攻められ落城、村上義明が城主となった。
- 慶長 3 年（1598 年） － 村上義明に替わり、丹羽長重が入城した。
- 慶長 5 年（1600 年） － 関ヶ原の戦いにおいて西軍に組した丹羽長重が除封され、前田利長の所領となり城代が置かれた。城代は利長の義兄の前田長種。
- 元和元年（1615 年） － 一国一城令により廃城となる。
- 寛永 16 年（1639 年） － 前田利常の隠居城として再築され、石垣の構築、二の丸三の丸の増築等、大規模な改修が加えられた。
- 万治元年（1658 年） － 利常が没し、以降明治まで城番が置かれ維持された。
- 明治 5 年（1872 年） － 廃城となる。

Wikipedia による

移築　常盤門（稚松小学校内）　　移築　鰻橋御門（来生寺内）